

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 19 年 10 月 18 日 (2007.10.18)

【公表番号】特表 2007-520214 (P2007-520214A)

【公表日】平成 19 年 7 月 26 日 (2007.7.26)

【年通号数】公開・登録公報 2007-028

【出願番号】特願 2006-547195 (P2006-547195)

【国際特許分類】

C 1 2 N 7/00 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

A 6 1 K 39/145 (2006.01)

A 6 1 K 39/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/16 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 7/00 Z N A

C 1 2 N 15/00 A

A 6 1 K 39/145

A 6 1 K 39/00 B

A 6 1 K 39/00 G

A 6 1 P 31/16

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 8 月 29 日 (2007.8.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

インフルエンザウイルスの回収方法であって、該方法は

(i) リボ核タンパク質複合体を形成でき、ヘルパーウイルスの非存在下でウイルス粒子を組み立てることができるように、動物細胞内にてゲノムまたはアンチゲノム vRNA セグメント、核タンパク質、および RNA 依存性ポリメラーゼの発現を指令するポリヌクレオチドベクターを用いて前記動物細胞にエレクトロポレーションすること、

(ii) 該エレクトロポレーションした動物細胞を別の細胞型と、ウイルス複製が許容される条件下で共培養すること、および

(iii) インフルエンザウイルスを回収すること

を含み、

その回収効率が少なくとも 90% である

前記方法。

【請求項 2】

前記動物細胞が Vero 細胞である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記動物細胞が SF Vero 細胞である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記別の細胞型が CEK 細胞である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】

前記インフルエンザウイルスが A 型インフルエンザウイルスである、請求項 1 に記載の

方法。

【請求項 6】

前記インフルエンザウイルスがB型インフルエンザウイルスである、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 7】

前記インフルエンザウイルスが好冷ウイルスである、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 8】

前記インフルエンザウイルスが弱毒ウイルスである、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 9】

前記ベクターが一組のプラスミドであり、該一組のプラスミドにおける異なるプラスミドの数が 8 個である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 10】

前記ベクターが一組のプラスミドであり、該一組のプラスミドにおける異なるプラスミドの数が 12 個である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 11】

請求項 1 に記載の方法によって作製されるインフルエンザウイルス。

【請求項 12】

前記ベクターがA/PR/8/34に由来する少なくとも一のvRNAセグメントの発現を指令する、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 13】

前記ベクターがMDV-Aに由来する少なくとも一のvRNAセグメントの発現を指令する、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 14】

請求項 1 に記載のインフルエンザウイルスを含むワクチン組成物。

【請求項 15】

動物細胞がMDCK細胞である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 16】

前記別の細胞型がMDCK細胞である、請求項 2 に記載の方法。

【請求項 17】

前記別の細胞型がMDCK細胞である、請求項 3 に記載の方法。

【請求項 18】

ベクターがMDV-Bに由来する少なくとも一のvRNAセグメントの発現を指令する、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 19】

MDV-AがA/Ann Arbor/6/60である、請求項 13 に記載の方法。

【請求項 20】

MDV-BがB/Ann Arbor/1/66である、請求項 18 に記載の方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0054

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0054】

本発明の別の好ましい実施形態はインフルエンザウイルスの回収方法である。この方法において、(a)動物細胞に、この細胞内にてゲノムまたはアンチゲノムvRNAセグメント、および核タンパク質、およびRNA依存性ポリメラーゼを発現する細胞発現ベクターをエレクトロポレーションして、そしてリボ核タンパク質複合体を形成することができ、ウイルス粒子を(ヘルパーウイルスを用いてまたは用いることなく)組み立てることができる；そして(b)ウイルス粒子がパッケージされ、回収される上記細胞を培養する。